

令和7年度 学校評価についてのまとめ

栃木第三小学校

【成果と課題・今後の取組について】

- ・「仲よく過ごそうとしている」に対して、A回答が30%と大きく伸びました。相手を意識しながら、友だちと仲良く学校生活を送れているものと考えられます。
- ・昨年度の課題として挙げた「体育などに目標をもって進んで取り組む」は、A回答が30%近く伸びました。今年度、運動会に向けて「頑張りカード」を活用して振り返りを行ったり、持久走大会を記録会として個人の目標によりスポットを当てて実施したりしてきたことが要因と思われます。
- ・昨年度は課題となっていた「決まりやルールを守って安全に生活」が、今年度は20%近く伸びました。これまでの生活指導により、児童の意識が向上してきたと考えられます。
- ・保護者アンケートに関しては、今年度もほとんどの項目でA・B回答が90%近くになっています。昨年度より伸びが見られたのが「学力や生活力が身に付いている」と「地域に根差した教育活動」です。家庭や地域との連携・協力という本校の特徴的な取り組みが評価されたものと考えられます。
- ・「地域教材や地域ボランティアの活用」で、A回答が20%伸びました。様々なボランティアの皆さんの協力を支えられている本校の特徴がよく表れた結果と言えます。
- ・「自分の考えをノートに書く」の評価が下がってしまいました。その背景には、タブレットをはじめとしたICT機器の活用が少なからず影響しているものと考えます。全体的に見て、デジタル教科書やMetamoji、teamsといった便利で魅力的なアプリの活用により、従来の紙と鉛筆の学習からデジタル中心の学習に変わりつつあるため、こうしたデジタルの便利さの裏で、自分の考えをノートに書いたり、聞いたことをメモに残したりする機会が減ったものと考えられます。ICT機器の活用を目的とするのではなく、場面によって使い分けさせていく必要があると思います。
- ・児童、保護者ともに「進んであいさつ」が、昨年より下がってしまいました。低学年の児童は、比較的高評価なのに対して、学年が上がるにつれて評価が低くなっていました。児童の発達段階もあると思いますが、あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本であり、学校を挙げて全職員、児童会であいさつ運動に取り組んでいきたいと思っています。
- ・今年度も、多くのご意見をいただきました。真摯に受け止め、改善を図れるように対応を検討してまいります。今後とも保護者の皆様のご協力をお願いいたします。